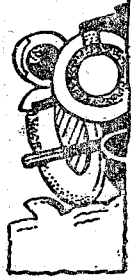
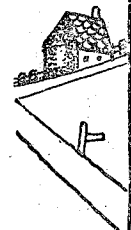


通信



佐賀・宮崎・大分を視察して〔完〕

瀧川 勸 則

十七 大分縣の現状

大分縣は色々な點で特色を持てゐる、一口に言へば極端
的であると言つていゝと思ふ。假令は文化の程度などと謂ふ
方面から觀察すると東洋のナポリとさへ言はれ、新らしい
ものゝ凡てを有し、華の都東京からの旅行者を田舎者扱に
する別府市が在ると思ふと、一方奥地には米の全然穫れな
い部落があり、此の村の人々は米を非常な貴重品として取
扱ひ、一生に一度米の音を聽いて見たいといふ念願を持つ

てゐることである。此處では病氣に罹つても醫者の診
察を乞ふなどと云ふことは思もよらぬ、酒屋へ三里豆腐屋
へ何里とかいふ言葉があるが、本縣は東西三十里、南北二
十六里、面積四百平方里(全國中第二十二位)であるから、距
離の問題は兎も角交通機關がない、最も近い樞要地への往
復も中々困難で日歸りは難かしい位であるから、醫者を呼
ぶにしても山駕籠を昇いで行くのであるが、大抵の醫者は
部落の名を聞いただけで膽を潰してしまふ。そこで草根木
皮の治療を試むるより致方がない。部落民はかような不便

の地に平和を樂しんで安住してゐるのであるが、彼等は次の様にして終生の望を達し得るのである。誰かゞ病氣に罹り回復覺束なくなる、普通で言へばカ

としては餅と鬼とを間違へたといふのがある。米を知らぬ人は餅を知らふ苦がないが、或時彼等は町に出て異様な出来事に出會した。

來事に出會した。

ンプル注射でも施さねばならぬ、そこで近親の者は苦心の結果手に入れた數十粒の米を竹筒に入れ、恭しく枕頭に持出し「それ米だぞよ」と言ひながら、

これを打振る米は筒の中でから／＼

と鳴る、これが彼等の終生俟焦れた米

の音なのである。この音を聞いた病人

は漸く安心して極樂往生を遂げる。同

様な話が栃木縣の栗山村にもあるとの

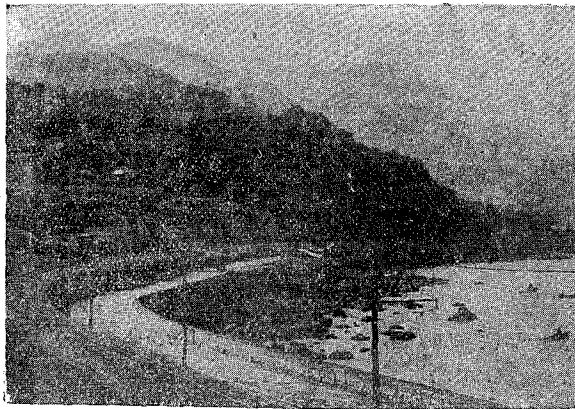
ことであるが何れが元祖なのか明かで

ない。私は旅行中日田町に一泊し、そ

の實況を目撃した人から親しく話を聞

いたのであるが、彼等は極めて眞面目に之を實行し、何と

なく心を打たるゝものがあるとのことである。又面白い話



別府大分間國道

それは一組の人が鬼を捕へて石の器に入れ撲殺しようとしてゐる光景である。上から渾身の力を以て打撃すると流石に相手は鬼である、がつしとばかりに棒に嘯み付くといふのである。又此部落の會議召集方法が甚だ振てゐる、何か問題が発生すると時を移さず「會長」の旨を受けた若者が附近の山に馳登つて「今日は寄るぞよ」と叫ぶと忽ち峯や谷から議員が集合し、その統制は實に鮮なものだそう。

是等の話は本縣が極端的であるといふ一例として擧げたに過ぎないが、政黨政派の争などもかなり極端的である。

A 黨の自動車走つて行つても B 黨の馬車は決して單純に道を譲らない何か一理屈云ふ、材木が道路に積上られてゐて車馬通行が不能になつてゐる所有主

をきいて見ると某黨の有力者だ、交渉しても反對黨の者だと中々らちがあかない、政黨といふものは一體何の爲に存在するのかわけがわからぬ。然し最近縣土木當局の決死的努力と一般縣民の覺醒とに依り土木行政に對する黨弊を稍改め得、將來の改善に曙光を認め得るに至つたことは縣民幸福の爲誠に喜ばしいことである。

十八 大分縣の道路

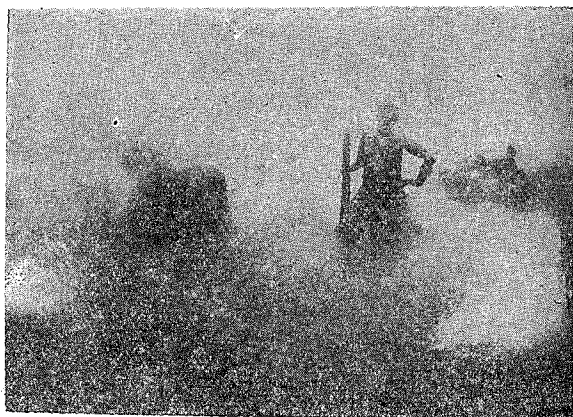
道路交通の幹線として第一に擧ぐべ

きは國道三號路線である。本道路は主として海岸線に併行

度である。尙佐賀關町地内には延長二十二町の特二十二號

し北から南に縣を縦貫し中津、宇佐、龜川、別府、大分、

國道がある。本縣道路中最も良好なのは別府市を中心とす



鶴

見

地

獄

る所謂熊本縣道（指定府縣道大分熊本線）及大分から日田町を経て福岡に通ずる所謂福岡縣道（指定府縣道大分福岡線）は國道に次ぐ主要幹線で縣

界までの延長前者は十五里十町、後者は二十五里三十二町である。此の外遊覽道路として耶馬溪を控へた日田中津線、軍事上の大分佐賀關線及佐賀關臼杵佐伯を連絡する道路、隧道の非常に多い國東半島一週道路などは何れも交通上重要な使命を持つてゐる。是等道路の一般幅員は四米五内外で辛うじて自動車を通じ得る程

る地獄遊覽道路で、先年改修された國道別府龜川間もその一部として含まれてゐる。大分と別府とを連絡する國道は交通繁激なのに先年國有鐵道工事に際し海岸寄に移設され改修稍困難に陥てゐる。現在幅員は五米五乃至七米二六、山手側に偏して單線軌道が併用されてゐるが、軌道内の路面維持不良の爲大分から別府に向ふ車馬は左側通行の原則に従ひ難い。府縣道の總延長は五百一里、一方里當國府縣道の延長は一里十一町の割合である。市町村道は二千二百九十三里であるが、道路總延長と人口九十四萬六千人（全國中第三十一位）とを比較すると一人當の延長は六間五分となる。更に年生產總額は一億六千百萬圓であるから一人當百七十圓、道路一里から年々五萬六千七百三十圓、一町から千五百七十五圓宛生產されるのである。

十九 道路改良計畫

道路の現状前述の如くであるから改良の必要を痛感する、何時までも政争に禍されてゐては後進の富崎などに追

越されてしまふ。政争と謂ても事業を競ふものと、反對黨の計畫打破を事とするものとの二系統があるが、中央方面の大幹部が餘程巧くコントロールせないと常に後者に陥り易い、彼等が群盲横暴の笠にばかり着られてゐて指導精神を失てゐては永久に改善の見込がない。此の状態を概して縣土木當局は一大決心の下に三年計畫を樹立したのであるが、その第一歩が六年度に施行された四十萬圓の失業救濟府縣道改良工事なのである。工事箇所は嚴正公平を旨とし施行價值最も多きものを選択したと堂々聲明する程あつてさこそと肯ける。尙縣は別府大分間の國道延長七千三百十五米を工事費一千四百萬圓を以て幅員十八米に改修すべく鋭意研究中である。此の計畫は偏倚的なりとして相當山地方面から反對を受けるであらうが、本道路の改良は直接的利益よりも寧ろ間接的利益が多いと豫想せらるゝのであるから舉縣一致實現に努力してもらいたい。

二十 失業救濟事業

失業者總數は二千四百十人であるが、當初延人員二十六萬六千人を使用し得る事業を計畫したが工事を請負に附した結果人員に相當減少を來すのではな

上浦佐伯線などである。使用労働者は從來の實績に徴する者と失業者五十二%、非失業者四十八%の割合であるが、前者は特に救済を要するものとして就

いかと思はれ此點は救済事業として遺憾であるが、當局は工事を請負に附するに當つて積弊を打破すべく乾坤一擲

労働票を交付された者で、日傭労働者と農業労働者とを含むのである。其の割合は前者四十五%、後者は五十五%である。而して就勞の希望を申出

の大決心を以て某方面の暗中飛躍を全然廢除し、場合に依ては落札を認めず斷然直營を以て施行するものなりとの

た者の内要就勞者と認められ就勞票を交付された者は四十三%である。労働者使用に當ては請負人と地元町

氣勢を示した。之に依て請負人の談合は打破され工事費は豫想外に低下し、

村長と必要的協議を行ふこととなつてゐるから一端就勞票の交付を受け

従て勞力費及労働者使用數が減少したのである。又道路用地が大部分地元町村の寄附であるから右の二個の事實は

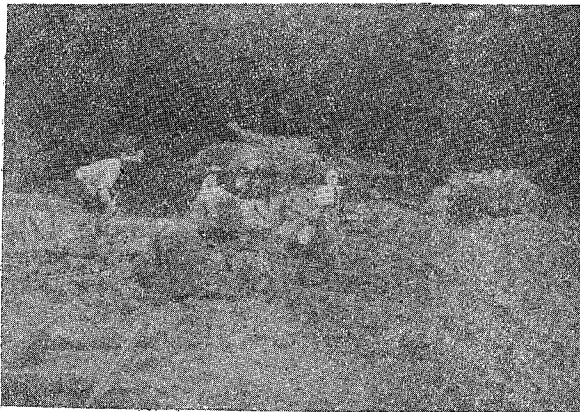
請負契約中に失業者使用率を明示してゐないのが本縣の特色である。失

相俟て効果を収め、經費の割合に工事が大きく道路改良としての効果は充分認め得ると思ふ。重

業救済事業として強制的に率を設定する方法と比較し、何を可とするかは研究問題であるが、失業者が少數で交代

要な工事路線は森小國線、樋田四日市線、立石竹田津線、東

を可とするかは研究問題であるが、失業者が少數で交代



制を要せない地方では本縣の如き方法を探るのも良いと思ふ。而して結局事業の恩典に浴する所謂要就勞者は十三萬八千人と豫想される。

二十一 大分市及

別府市附近

大分市も別府市も共に別府灣に望み縣の中央部に位し、日豊線の要驛で且國道交通の要衝に當つてゐる。兩市の距離は七千三百米、國有鐵道、私設軌道及國道の三線を以て連絡されてゐる。而して國道の現狀は前述した通り大型自動車と併用電車との間に行違又は追越不能の曲線三箇所あり、殊に佛崎の曲線は視距短く信號所を設置してある。山手側軌道敷内は宛も電車の専用に使された如き状態を呈し改善の必要を痛感せざるを得ない。



大分市の人口は五萬七千二百九十五人縣治の中心で堅實な都市である。大分市から國道を南下すること四十餘軒、

大野郡川登村泊に風連鐘乳洞がある
大正十五年二月發見されたものであるが、本洞が天下に紹介さるゝと共に國道交通が俄に頻繁になつたのことであるが、一名勝の力も中々侮り難いものである。

石 立
竹 田
津 線
別府市の人口は四萬三千七十六人で、大正九年施行の國勢調査から昭和五年のそれまでに約十割の増加率を示してゐるのであるから到底他の追隨を許さない。温泉地としての聲價は今更言ふまでもないが、市の附近は何處を掘つても直ちに蒸気を噴

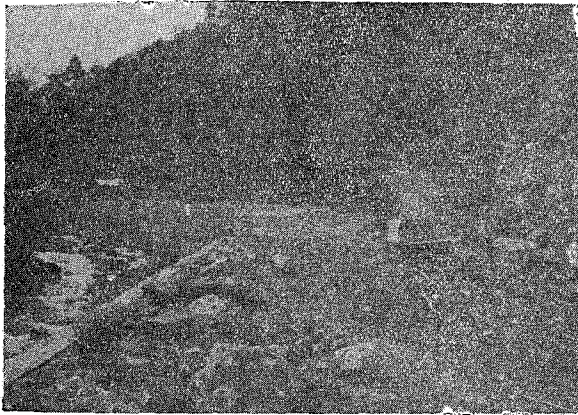
出し、至るところ大小の熱泉があり之を地獄といふ冬の日など別府を遙に望めば霞雲の内に浮ぶの感がある地獄遊覽

道路は本縣第一のものであることは前述した通りである。

二十二 別府から日田へ

別府から飯田別府線及福岡大分線に依て日田町に向ふ、道路は先鶴見由布の連山を越へる此の山は富士五湖の雲雀ヶ岡などと同様非常に軟い感じの山で温泉と獨立して充分鑑賞の價値がある。道路をもう少し良好ならしめ自動車交通を安全にしたならば由布附近の温泉と共に尙發展の餘地がある。此の目的で選定されたのが南由布村地内飯田別府線改良工事である。南北由布村は別府に遙らぬ豊富な温泉を有し、府縣道の側溝からさえ蒸氣を立て、居る有様で温泉を動力とする米搗水車が在る位だ。

森町地内及南山田村地内森小國線の工事を視察し福岡大



分線を北西に進むと國有鐵道久大線建設工事の爲數百米の間出願工事に依り道路付替を行つた所がある。鐵道側の話

に依ると道路は條件通完成したのでたと謂ふが、輾壓不完全でバラスも撒かれてゐない。數日前の降雨の爲泥濘車輪を没し十數臺の荷馬車と自動車數臺とが交通不能に陥てゐた。荷馬車は鐵道工用の材料を運搬中のものなのだから皮肉を感ぜさせられる。建設工事監督員は堤上に立て「貴様等は道の惡るいのを知りながら荷物積み過ぎるのだ」と叱咤して居つたが斯る事が頻發すると道路管理者の權威を失墜するものもさることながら、彼の言動は勞働者の反動精神に點火することになりはせぬか、豪傑氣取も結構だが情涙を知らざれば鬼畜に近い。

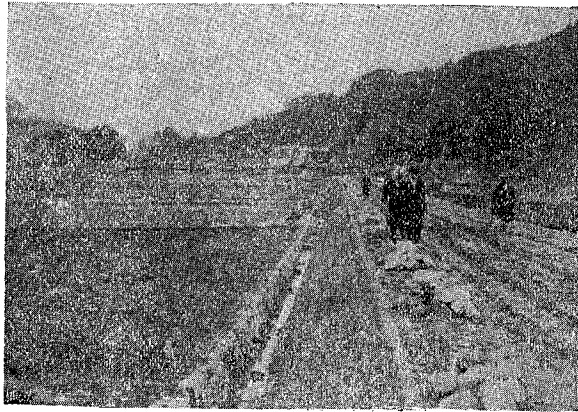
仙境日田盆地は筑後川の上流三隈川流域であるから水系から言ふと西九州に屬する。盆地の中央に日田町が在るが

歴史に依ると景行天皇が熊襲征伐に御出陣の際既に存在した古い町で従て舊家が多い、日田縣が大分縣に合併せらるゝ前は一縣を統制した首都である。

曩に二十五勝に入選し盆地としては日本で一、二を争ふ景勝地で商況も中々活發だ、三隈川の鮎と鰻は旅客の味覺をそゝるに充分である。長途の旅行に音頭や行進曲で中毒した我々の耳にも此處のコツ／＼節だけは風變りな印象を與へてくれた、歌は小學校の試験の時唱つただけの私にまねの出来よう筈もないが、かなりの名人でも本調子を出すすまでには日時を要する。

春の野に出て七草摘めば「サンヤリ」にコツ／＼

露は小づまにみなぬれかゝる
よしておくれや鬼あざみ、コツ／＼



橋 日 田 四 日 市 線

平易で然もエロティック名物落鮎と深味を競ひ得る。日田町は大分や別府との交通よりも中津、久留米及福岡との交通が頻繁である。

二十三 日田から中津へ

日田中津線は山國川に沿て日田と中津とを連絡する重要道路で且遊覽道路を兼ねてゐることは前述した。耶馬溪は海内第一の奇勝として詩人山陽をして筆を棄て、嘆賞せしめた位であるから、山勢の奇秀、流水の特趣大いに見るべきものがある。又深耶馬溪は秋色に秀れ、近年観客とみに増加しつゝあるとこのことだ。洞門附近から左に分岐して名利羅漢寺に通ずる

羅漢寺橋は特殊構造を有するが風致問題上研究された結果であらう。尙右に分岐し四日市町地内で國道に接続する樋田四日市線は目下盛に改修中だ。日田中津線も部分的に改修の必要がある。三花村地内の六年度改修豫定箇所は用地の關係で中止せねばならなかつた事は誠に遺憾である。中津市外福岡縣界に架る國道山國橋は福岡縣に於て工事執行の筈である。

二十四 中津から別府へ

中津から國道を南下する。幅員はあまり廣くなく當面の交通には支障なしと謂ふもまだ交通能力上改良を要するものと認められる。宇佐町に在る宇佐八幡は清磨をして仮人道鏡の膽を冷殺せしめた靈驗あらたかな官幣大社で、宇佐町はこれあるが爲に常に繁榮してゐる。立石町地内に於て國道から分岐し國東半島を縦斷し竹田津港に達する立石竹田津線は分岐點附近を先年改修したので、六年度は之に接続する工事を施行したが、既改修區間の路面不良で工

事用材料の運搬も容易でない。改修の効果を收め交通上の價値を上げ得る爲には維持管理は一日も怠り得ない。國東半島の頸部を横斷した國道は日出町で別府灣頭に出る。斯くて豊岡、龜川を經由し別府に歸着した別府龜川間の道路は悪路として非難的となつてゐたのだそうだが先年改修以來面目を改めたようだ。別府に近づくとつれ追々道路條件が良好になつてゐるのは流石に交通上の必要に迫られての結果である。かくて九州旅行の使命も此處で漸く完了した。各縣とも失業救濟事業のみならず災害復舊工事など非常に多忙な時機で然も日程に無理が多かつたにも不拘縣土木當局諸賢の熱誠なる御指導に依り當初の目的を達し得たことは喜に堪へぬ。別府港で大阪商船紅丸に乗船し海上から更に大分を訪れ夕照に映ゆる瀬戸内海を縦斷して歸廳の途に着いた。船窓に座して黙想すれば僅々十日の旅行に依て學び得た利益は主觀的に偉大なものがある。(完)